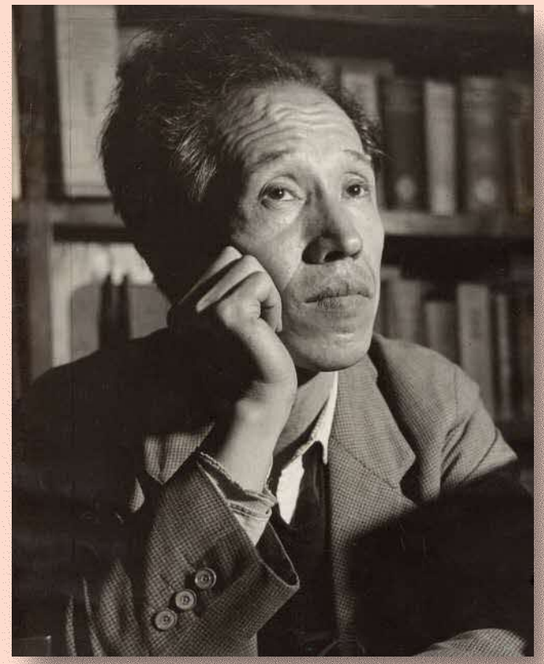
短歌

友廣保一（ともひろやすいち）



山口市

（1904～1993）

友廣保一は、昭和五年古書店「第三書房」を開業して、生涯山口市を離れることはなかった。十代の頃に短歌と出会い、中村憲吉、斎藤茂吉、土屋文明に師事し、アララギ人として歌への情熱を燃やし続けた一生であった。若い頃は旅を好み情景を詠んだものも多く、友人、家族にも目を向けて、なにげない日常を歌っている。歌誌『なぎ』を発刊の五十歳の頃より、我が事を詠んだもの等、独特で軽妙。後半生の歌には、宗教感にも似た一途な生きざまが感じられ、達観した人生を送った歌人。

（富田瑛子）

【主な著作】

歌集『流るる音』（石川書房、昭和63年）

歌集『〈続〉流るる音』（石川書房、平成2年）